



全姉連報

Vol.12

会報

Zen-Ane-Ren Presents
Elder Sister Only Magazine

全姉連会報 第12号

表紙:音音先生(「cocon!」)

念願かなって、ついに全姉連の表紙に音音先生をお招きすることができました。

手前下から、鳩姉(君が主で執事が俺で)、音姉(姉 Summer! 2)、タマ姉(To Heart2)、暁子姉(アットホーム・ロマンス)です。

事前に指定したわけではないのに、総裁お気に入りお姉ちゃんばかり!

特に音音先生んちのタマ姉が全姉連に遊びに来てくれたのは感激です。

お忙しいスケジュールの合間を縫ってお描き下さり、ありがとうございました。

姉ゲー『鬼が来ないで、おえせろとのたまうた。』(130cm)

2009年最大の問題作! ? ポンコツお姉ちゃんの明日はどっちだ?

姉ゲー『このままじゃ、姉とSEXしてしまう! ?

～あれ、弟よ、いま中ごださなかった?～』(OLE-M)

8+2人の姉に囲まれる多人数型本格的姉ゲー。今日はお姉ちゃんと仲良くする?

姉コミック『Sweet Home』(やまぶき雑)

押しかけ許嫁の登場に、小姑予備軍のお姉ちゃん2人はいつもやきもき。

姉ゲー『姉 Summer! 2』(あるてみる。)

まさかの実姉参戦! 前作から姉要素 200%アップで大満足の姉ゲーに進化。

姉ゲー『ラブプラス』(コナミ)

総裁が現在お付き合いしている年上の彼女・寧々さんを紹介します。えへへ。

姉アニメ『東京マグニチュード8.0』

「この姉アニメがすごい 2009」第1位! 震災後の東京、自宅を目指す姉弟を描く感動作。

姉ノベル『お姉ちゃんの弟くん』(真悪真雄)

実姉+義姉のWお姉ちゃん構成。それぞれ異なる姉弟の絆。しかし想いの強さは同じ。

我林先生誌上講義

『姉萌えの日本史・万葉集 大御皇女と大津皇子～悲劇の姉弟』

深い姉弟愛で結ばれつつも悲しい別れを迎えた姉弟を誌上講義。ここ、テストに出ます。

告知:姉属性 ONLY イベント「姉魂っ ～sis-con!～」

いつものお約束:

全姉連のレビューは「姉萌え」至上主義。

姉萌えの観点を第一に各作品を評価しています。

本文中で引用した画像、文章の著作権は、すべて各メーカー様、著者様にあります。



鬼が来たりて、甘えさせろとのもうた。

| | |
|------|------------------------|
| ブランド | 130cm |
| ジャンル | 依存少女たちによる嫉妬・修羅場 AVG |
| 発売日 | 2009年6月26日 |

都会から遠く離れた寒村、詩乃塚村 ——

その村の頂上に位置する神社、詩乃塚神社の神主の息子・美作秋人は、自分の交友関係の狭さ —— 率直に言えば友人の少なさ —— に悩みを抱える学生。

ポンコツ美人で超絶ブラコンの愚姉・美作小春に振り回され、想いを寄せる幼馴染・宮部綾子には何故か日常的にストーキングされ、様々な噂とともに完全にクラスで“浮いた”存在になり友人皆無の現状を、心機一転、改善するために意気込んでいた。

しかし、学園の新年度を明日に控えた夜に、運悪く賽銭泥棒に遭遇し殺されてしまい、その短い人生に幕が降ろされ ——

——たかに見えたが、突如現れた見た目少女の鬼の姫にして土地の守り神・姫歌に助けられ、一命を取り留める。

しかし、姫歌はその代償として力の大半を失ってしまい、秋人を助けた礼として自分の面倒を見ろと言って家に転がり込んできた。

ここぞとばかりに秋人に甘えまくる姫歌に、嫉妬心を燃やした小春は事あるごとに姫歌と対立。

そして、秋人は姫歌 VS 小春の「駄々甘え合戦」の渦中に巻き込まれていく ——。

思われます。

というのも、その試聴版の中では、愛弟の歯ブラシでこっそり歯を磨いて恍惚とトリップしたり、洗濯かごの中から愛弟の下着をこっそり拝借してハアハアする姉が演じられていたのですから！¹

年に一度出るか出ないかクラスの超絶ブラコン姉の登場予告に、姉ゲーファン一同は発売前から期待に打ち震えて待っていたのです。

結果、ブラコン過ぎて文字通りの愚姉でポンコツな小春お姉ちゃん、通称ハル姉との、べったり甘甘（姉→弟の一方通行）の姉弟生活は確かに存在しました。そりゃもう本当に心地よい世界で、もう山とかオチとか意味なんて要らない、ただただハル姉と仲良く暮らせる話なら満足だ……そう思って呑気にプレイしていたのです。

しかし、平和に見える日常を支えていた歯車の一つが欠けた日から、為す術もなく次々と病んでいく周囲の人たちと詩乃塚村。本作が隠し持つもう一つの側面を見せつけられることになりました。

■話題作？ 問題作！？

今年度最大級の話作か、あるいは問題作か。

発売後、多くのプレイヤーを歓喜の渦と困惑の闇に陥れたタイトルです。

人によっては発売前後に大きく評価を分けたこのゲーム。それは、公式サイトで一部が先行公開された特典ドラマ CD があまりにも衝撃的だったのも一因だったように

■そのヤンデレは姉萌えか？

公式にも「ヤンデレ」と称されているので、そう呼びますが、確かに声高ではないものの発売前からヤンデレ要素があることは告知されていて、ある程度覚悟していま

¹ しかもこれが歴戦の姉ゲープレイヤーも感情を持って余すほど、CV あさり☆さんの名演技。公式サイトでは発売後も試聴可能です。

した。従って「聞いてない、騙された」との反応はここではお門違い。

さて、筆者はヤンデレに対し特別な思い入れはなく、第一ここは姉ゲー批評の場、姉萌え観点から病み具合を評させてもらえれば……自分にとっては違和感の残る病み方でした。

ハル姉は、あることに絶望した弟の身を案じるがあまり、負の暴走に至ります。そして、その最終的な形は、弟の気持ちを自分以外のことに向けて紛らわせようとするものでした。(ネタバレ回避のため、あいまいな表現になるのはお許しを)

ストーリーの流れ上、そういう形も理解できます。ハル姉が弟を救いたい一心で行動したことも間違いありません。

しかし、まともな理屈の通らない狂気の世界なら、流れを無視してでも「あーくんを一番愛しているのはお姉ちゃんなの。あーくんは姉の方だけ見ていればいいの」と、ブラコンをこじらせた自己中心的な病み方のほうが姉属性的には見てみたかったように思われます。後に述べますが、ハル姉は弟の恋を応援しようと決意した手前、姉の自分に再び目を向けさせることが出来なかったのは分かるとはいえ。

加えて、ハル姉ルートと呼べるシナリオはバッドエンド風の1本のみだったのも惜まれるところです。姉が救われるのは、なんとか八方丸く収まる最終話に至ってから。本作では大きな存在であるお姉ちゃんなのですから、多少いびつな形であっても、バッドエンドと対になるハル姉ルートを用意してくれてもバチは当たらなかったのではないか、そう思えてなりませんでした。

■されど極上の逸品

しかーし！ 『鬼うた。』は、鬱展開の存在を綺麗さっぱり差し引いても余りある、

極上の姉ゲーでありました。

可愛くて頼りになって、目に入れても痛くないほど溺愛している弟への愛情はとどまるところを知らず、「あーくん構って構って！ お姉ちゃん独りじゃなんにも出来ないよお」と駄々甘えのハル姉。そこらのブラコンお姉ちゃんに引けを取らない奇行・言動続出で、見ていて飽きません。

ブラコンお姉ちゃんの標準装備である小姑パワーも強力です。弟に近づく悪い虫を「ふしゅーっ！ふしゅーっ！」と威嚇するハル姉の可愛さは必見。

■甘えん坊お姉ちゃんの卒業

桁外れのブラコン姉が生み出すコメディだけかと思いきや、実はこの物語、ハル姉の「姉としての」成長ストーリーでもあるのです。弟に依存するばかりで満足に家事もできなかった姉に自立心が芽生え、立派な姉になろうとする姿は感動を覚えます。しかも、とってつけた小手先のストーリーではなく、作品の根幹に関わる重大なテーマとして真摯に描かれているのです。

弟にしてほしいことばかり考えていたハル姉がライバルの出現に触発され、「甘えていだけの姉は姉じゃない。弟の幸せのためにしてあげられることをするのが本当の姉だ」と気付き、不器用に奮闘する様子をぜひ見てあげてください。

立派なお姉ちゃんを目指し始めたハル姉は、果たして自分と弟が結ばれることが真の幸せなのか、自問することになります。かように常人離れしたブラコン姉でも、「姉弟同士で結ばれることなんて許されない。そのくらい、わかってる」と言うハル姉。弟の想い人は、一つ年上の幼なじみ・アヤ姉であることを見抜いている彼女は、弟の想いを遂げさせてあげることが姉の取るべき行動だと自覚できるまで成長しました。

好きで好きでたまらない弟への背徳的な情愛と決別し、崇高な姉弟愛に昇華させた結末は、同年、互いを愛していたからこそ姉離れ・弟離れを果たした姉弟を描いた四コマ漫画『アットホーム・ロマンス』（風華チルヲ）とダブリます。

姉弟の禁忌を犯してまで姉弟愛を貫くことが姉モノの究極の姿なのではなく、「**禁忌を犯さずに姉弟愛を全うする**」ことも同等に尊いのではないか。両作品が提示したこの主張は、安易に背徳感を煽ることへ問題意識を投げかけるものとして、受け手も送り手も、すべての姉属性人が心に留めておくべきではないでしょうか。

■キャラクター

・美作小春（実姉）

弟を溺愛するブラコン姉。1歳年上。温厚で美人で豊乳。

「あーくん、あーくん…」と弟に甘えつきりのため、家事能力、生活能力が低く、自ら認めるポンコツ愚姉。世話焼き生活が染み付いた弟も、しょうがねーなーと面倒を見る毎日で、どっちが保護者だか分からない関係。

ただ、新たなライバルの登場で、ハル姉の心に「立派な姉になりたい」と意識が生まれます。

—どうしてそれなのに私は、あーくんに甘えるだけであーくんに何もしてあげられない、グズでワガママのポンコツに生まれてきたんだろう……？

—あーくんに喜ばせることができるようになりたい。

—あーくんが自慢に思うような、そんなお姉ちゃんになりたいのに。



弟に面倒をかけさせてきた今までの恩返しをしたい。今度こそ本当にお姉ちゃんらしくあーくんを構ってあげたい。一途な想いで必死に成長しようとする、不器用なハル姉の努力が弟の心を打ちます。

「これからは、お姉ちゃん頑張るから……今はダメでも、少しでもあーくんの喜ぶこと、してあげられるように頑張るから——！！」

そして、あーくんの幸せにとって、姉の背徳的な感情が障害になることに気づくハル姉。あーくんのお嫁さんになることが夢だった彼女が、身を裂く思いで未練を捨て去った姿は、さながら悟りを開いたお釈迦様のような。

立派な姉に生まれ変わった後の、優しくもちよっと切ないお姉ちゃんのセリフ群は感動的です。

■へっぽこお姉ちゃん、再び。

姉ゲーを求める層にヤンデレ部分は要らなかったのではないか。最後までお姉ちゃんとの仲良しライフが見たかった。そんな声上がるのを見越してか、鬼うたファンディスク『鬼（が夢見し常の世に、至る幼き恋のはじ）まり。』が発表されました。

「へっぽこお姉ちゃん、再び。」

「私、美作小春は、本日を持ちまして、あーくんの、あーくんによる、あーくんのための、立派なお姉ちゃんになります！！」

ハル姉のドタバタ姉弟ラブコメか！？

聞くところによれば、今回は鼻血以外の流血は無しの完全コメディとのこと。これぞまさしく総裁が求めた世界ではないか！

あんな面白ブラコンお姉ちゃんは、病まずだけではもったいない。姉弟の真面目なお話は『鬼うた。』で描ききった。だからこの際、突き抜けるトコまで突き抜けて欲しいと願いを込めて締めくくります。

このままじゃ、姉とSEXしてしまう!?

～あれ、弟よ、いま中でださなかった?～



| | |
|------|---------------------------|
| ブランド | OLE-M |
| ジャンル | 巨乳のお姉さんと同居&学園生活&エッチな日常AVG |
| 発売日 | 2009年10月30日 |

■豪華8+2人の姉みれ

多人数型の中でも最大級、合計10人のお姉ちゃんに囲まれる大作が登場。

制作したOLE-Mはテックアーツのブランド。テックアーツ……実力も意欲もあるメーカーですが、ストーリーやキャラ設定が弱点。『姉とボイン』(G.J?/2004年)では姉ゲー史上初の姉10人作品を発表しましたが、実用性に走るばかりで、内容はお粗末な限りでした。総裁の中では、あれはもうトラウマで、正直なところ「懲りもせずにもた10人の姉なんぞ……」と思っていたのに、懲りもせずまた手を出してしまいました。嗚呼、姉ゲー馬鹿一代。

するとどうでしょう。『姉とボイン』では微塵も感じられなかった、お姉ちゃん達の弟魂(ブラコン)が伝わってくる作品に進化。名作と呼ばれる姉ゲーに比べると練り込みが甘い部分はありますが、それでも個性的な10人の姉達に囲まれて賑やかな気分になれる本作は成功した作品と言えるのではないのでしょうか。

■キャラクター

・春日ゆり(長女)

若くして主人公の通う学園の学園長。久々に再会した姉。

姉弟きっての才女で、スーツをまとった風格ある姿は、女教師を超えた、まさに学園長そ



のもの。

公式の紹介では「完璧主義者」とあるので、さぞかしお堅いセンセイなのかと思いきや、これがベタ甘のブラコンお姉ちゃん。ゆり姉さんは学園長モードと姉モードの激しい落差が特徴なんですけど、学園長モードでもそんなに厳しくはなく、生徒からも慕われそうな優しい先生。

そして! お家で髪を下ろしたお姉ちゃんモードに切り替わると、母性に満ちあふれた過保護な姉に変身。

「靴下はちゃんと履いた? ハンカチは、ティッシュは?」

正面から俺を軽くハグしながら、姉さんは目鼻の距離で詰問をしているのだ。

「うん、大丈夫」

「おしっこはしたの? ご飯はしっかり食べた?」

お姉ちゃんが面倒見てあげないと何にもできないんだからこの子は、という姉意識が見えて、実に微笑ましいのです。

かといって、完璧超人かというところでもなく、不器用で炊事洗濯ができない人で、そこがまたお茶目な部分でもあり。

・春日あやめ(次女)

セクシーフェロモンをまき散らすナイスボディな美女系姉であり、通称・春日家の「エロビームマシンガン」。弟とはこれまでも一緒に過ごしてきた姉。



下ネタ大好きで、エロい自分を誇りにすら思っている。

「お〜い、歩くチ○コ！ 学園初日はどうだった〜？」(街中での発言)

「あなたのトイレのあとがイカ臭かったから、あたしはビールが欲しくなったのよ！ 文句あるの？」

そんな思考の持ち主にとって、弟が格好のオモチャ。暇さえあれば弟の身体と心をもてあそぶのは、あや姐ならではの愛情表現、なのでしょう、きっと。

優秀な頭脳を持つも、性格はガサツでズボラ。付き合いの長い弟が、「まったくもう……」とぼやきながら彼女の部屋を掃除するような関係になります。

本格的なイジリ系・イジメ系姉なので、その筋のお姉様が好みかどうかで評価は分かれるかも。ただ、クライマックスのブラコン告白シーンはかなり濃厚で(それまでのシナリオとの飛躍が大きく、取って付けた感はあるのですが)、姉原理主義者には泣けるセリフがずらりと並びます。

あや姐にとって、主人公は手近な「男」程度にしか見ていなかったように思わせておいて、実はずっと「弟」として見ていた心の内を吐露するラストは必見。弟を愛してしまった姉の苦悩すら覗かせてくれます。

「あなたは誰がなんと言おうと弟なのっ」

「……あなたを男として見ようとする、あなたが弟だというのを、否定しているように思えて」

姉弟は姉弟として結ばれるべき、とする姉ゲーの真髓を見せてくれた姉でした。

・春日ぼたん(三女)

春日家最後の良心。独特の個性を持つ姉妹達の中で、奇跡的に常識と良識を保った人。久々に再会した姉。



大学生と春日家の主婦業を掛け持ち、一通りの家事をこなす、「お嫁さんにしたい姉」ナンバー1。いつもにこやかで家族思い。その温厚な性格は、どんな弟にも好かれる全方向対応の万能選手です。その雰囲気や立ち位置から、『姉しょ』の巴姉と通じるものがあります。

言うまでもなく、弟思い。敢えて「ブラコン」とは言いません。あくまで穏やかな性格の持ち主であるぼたん姉は、ごく自然に弟のことを大事にしてくれて、弟の想いを受け止めてくれる優しい姉であって、「ブラコン」の持つ一種病的なイメージにはそぐわないように思われるから。

突飛な行動や言動がないため、ここでの紹介が難しく、実際の雰囲気を感じてもらえないのが悩ましいところ。

一度だけ、ぼたん姉がキれるシーンがあるのですが、春日家の家族同様ぽかんとしてしまうこと請け合いなので、それは見てからの楽しみに。

・春日すみれ(四女)

常に読書にふけている、クールな頭脳派のインテリ姉。弟とはこれまでも一緒に過ごしてきた。あや姐と仲が良い。



言動はいつも冷静かつ客観的であるがゆえに、容赦なく痛いところも言い放つイノセントな毒舌家。

たまたま文系であったが故に免れているが、理系であったなら間違いなくマッドサイエンティストとして弟はモルモットにしているような容赦のない姉。

口数が多い方ではなく、自身の感情も露わにしないので、ブラコン姉としてのインパクトはどうしても弱め。理性的な物の言い方におもしろみはあるものの、姉弟の中

では一步引いた立場に置かれて、割を食ってしまいました。

・春日つばき（五女）

他を寄せつけない美貌と美声で、国民的トップシンガーに登り詰めた「椿姫（TSUBAKI）」その本人。主人公も彼女の大ファンの一人であったが、自分の姉とはまったく知らず、久々の再会によって初めて事実を知る。



彼女のモデルとなっているのは、マクロスFのシェリル姐さん。性格もおおむねその方向。業界の頂点に立つ芸能人像らしい、高飛車風味の姉。

ただし、弟を見下したり、馬鹿にしたりはしません。なぜって……つばき姉さんが愛しい弟のことを、そんな風に扱うわけないじゃないですか！

このお姉さんは隠れブラコン。弟に対してベタベタせず、弟を簡単に寄せつけないその態度は、照れ隠しに過ぎなかったのです。しかし、一緒に生活する家族の間柄、あっさりと姉妹にブラコンを見破られて「ち、違うわよっ」と慌てる可愛さ込みでつばき姉さんは成り立っています。

再会した姉が、実は有名な芸能人だったとする設定はギャルゲーならではですが、上手く感情移入ができれば、世間の憧れの対象が自分の姉という誇らしさを感じられて、他ではあまり見ない味わいがあります。

・春日あさがお（六女）

内気で大人しいお姉ちゃん。久々に再会した姉。

バイト先のメイド風エプロン制服がお気に入りだったり、パティシエを



目指していたり、女の子らしい面は持ち合わせているが、物静かな性格の宿命か、存在はどうしても地味。特に個性派揃いの姉妹の中では埋もれてしまい、他姉との絡みも少なく、最後まで立ち位置がはっきりしませんでした。

引っ込み思案な性格を活かしたストーリーは用意されているものの、彼女が姉である必要性が薄く、残念ながら不満が残る結果となりました。

・春日ひまわり（七女）



小柄な身長にツイエンテール、コロコロ表情が変わり、天真爛漫な性格のロリっ子お姉ちゃん。久々に再会した姉。

冗談を真に受けたり、食べ物で釣られたり、遊びに連れてけー！とせがんできたりする姿は、無邪気な子どもそのもの。でも、子ども扱いはお姉ちゃんの機嫌を損ねるので、もちろんタブー。こんなタイプのお姉ちゃんは、たいてい背伸びしてお姉ちゃん風を吹かせる（そして失敗する）のが定番ですが、ひまわり姉は背伸びした様子がなく、さも当然のように「もっとお姉ちゃんに甘えるといいぞ」といった感じで姉をアピールしている点が好印象。

彼女に深みを与えているのは、終盤で見せるお姉ちゃんの悩み。彼女は一見能天気に見えて、実は姉妹の中で誰よりも「お姉ちゃんらしくありたい」と頑張る努力家なんです。童顔で身長も低い姉だからこそ、内面を磨いて、周囲から認められる姉になりたいと願いながら、それがなかなか叶わず苦悩する姿…。

「立派なお姉さんになりたいのに、晴彦が、胸張って自慢できるような……、そんな、お姉さんになりたいのに、なにもできなくて……」

ああっ、もうギュッと抱き締めてあげたくなる、健気なお姉ちゃんシーンなのです。

大事なことを言い忘れましたが、巨乳8姉妹の中で彼女が最大のおっぱい持ちです。

・春日あろえ（八女）

活発・快活で、主人公と一歳違いの陽気な女子校生お姉ちゃん。弟とはこれまでも一緒に暮らしてきた姉。ひまわり姉と仲良し。



スクリーンショットは、敢えて怒り顔を選んでみました。だって、このお姉ちゃんは、弟に対していつもぷりぷり強気な口調で接するんですもの。歳が近い兄弟姉妹はお互いよくケンカしがちですが、まさにそんな感じ。身近にいるとかえって反発してしまう理論に加え、お姉ちゃんは自分の気持ちに素直じゃない性格となれば、大好きな弟の前では本心と裏腹な態度を取ってしまう……これじゃまるでツンデレじゃないか！（その通り）

「誰が心配なんか、あんたのことなんて知らないわよっ」

「ち、違うわよ、これはその……廊下で拾ったのよっ！なんであんたの心配なんて……馬鹿じゃないの」

こんな調子で、本当は一時たりとも弟のことを放っておけない、心配性のお姉ちゃんなんです。馬鹿でマヌケで……と憎まれ口を叩きながら、片時も弟のことを忘れられないその様子にニヤリすること必至。

・御陵歩唯（謎の姉1）

学園で、あやめ姉に連れられて登場した謎の姉。主人公にとってはまったく覚えのない人物なのに、



彼女の方はまるで生き別れの姉であるかのように再会を喜んで、しきりにお姉ちゃんらしさをアピール。

「お〜う、いたいたあ〜、弟くんのために、お姉ちゃんがやって来たぞ〜っ！」

「もう、お姉ちゃんがいないと全然ダメなんだからっ」

実の姉以上に姉っぽく振る舞う彼女の正体は？

・葉々瀬椎（謎の姉2）

主人公にとって身に覚えのない姉その2。

主人公の頭上に落ちてきた鉄骨を、身を挺して守るというデタラメな強



さで登場し、大事な弟に降りかかる外敵は私が実力で排除すると言わんばかりに付きまとう謎の凄腕エージェント姉。

余興的に楽しめるキャラクターではありますが、姉要素豊富な春日家姉妹の後では微妙な出来具合になってしまっていました。

■名誉挽回の一作

個人的には当初の期待が低かっただけに、思いがけないヒット作になりました。

各姉ごとのシナリオもそこそこの出来、姉妹間の掛け合いも適度に挟まれて、必要最低限の大家族感も味わえます。弟の性格も大きなクセがなく、標準的でした。

全体的な質で言えば、まだ上が目指せそうですが、そこは人数の多さでカバーして相殺できる範囲です。10人もいればほとんどの弟にとってお気に入りの姉の2〜3人は簡単に見つかるでしょう。

テックには何かと実用主義のイメージがありましたが、これによって見方が変わりました。今後も良い姉ゲーをよろしく！



Sweet Home

| | |
|-----|-----------------|
| 著者 | やまぶき綾 |
| 発行日 | 2009年10月11日 |
| 発行 | まんがタイム KR コミックス |

幼い頃の約束を果たすために伊織の前に現れた陽向。けれど陽向の前には、「異性に触れられない」とことと「伊織 LOVE の姉二人」という二つの大問題が立ちふさがって……!?

■嫁・小姑戦争勃発?

葉澄・和奏・伊織は、姉・姉・弟の三姉弟。その3人が暮らす家に、突然、許嫁を名乗る女の子・陽向（ひなた）が押しかけ、一緒に生活することに!?

陽向は、異性に触れられると条件反射的に手が出てしまう厄介な癖の持ち主。さらに具合の悪いことに、伊織君の前には小姑が2人。そんな3姉弟+許嫁のドタバタ系ラブコメ4コマ作品です。

この手の話だと、姉・弟・妹構成にして、一人は妹キャラをあてがいそうなものですが、敢えて姉二人を置いた著者は偉い。嫁・小姑戦争というからには、小姑は妹ではなく姉が似合う。なぜなら姉は、母親同様弟の保護者の意識を持ちやすく、たとえ恋心は抱いてなくても、弟の嫁に対して「取られた」感を持ちやすいからです。

本作も話の中心は伊織君を巡る争奪戦になるのですが、争いと言ってもそんなに熾烈なものではなく可愛らしいもの。誰が伊織君の隣に座るとか、どっちが美味しいバレンタインチョコを作れるか、とか。

作風も登場人物の性格も穏やかなため、行動の突飛さよりも「恋する乙女の複雑な内面」を見せる作品になっていて、ストレ

ートなブラコン描写は控えめ。姉属性的には、行間の姉心を読み取れるような、中～上級者向け作品かも知れません。

■キャラクター

・倉賀葉澄

才色兼備の生徒会長。家でも学校でも凛々しく冷静な姉として振る舞うが、実



はブラコン。弟と仲良くするために策を弄しても、なかなか報われない苦労人。

ブラコンを隠しているため、伊織は姉の想いに気付かない……。

・倉賀和奏

外ではツン、家では微デレのちっちゃいお姉ちゃん。



陽向にはい

つも敵対心むき出しだが、肝心の弟へのアタックはいつも空回り。

■片想いお姉ちゃん漫画

姉が隠れブラコンだったり、ツンデレだったりして、寸止め感の強い姉コミックです。分類するなら、ブラコン片想い系姉コミックといえる作品でした。



姉 Summer! 2

| | |
|------|------------------------|
| ブランド | あるてみず。 |
| ジャンル | お姉さま達と甘えるいちゃいちゃ AVG |
| 発売日 | 2009年8月14日 |

紆余曲折(?)を経て晴れてカップルと成った祐太と圭。

大学にも合格し、二人仲良く暮らしていたが、ある日訪問者がやって来る。

それは、祐太の実姉・山内音羽。

昔から犬猿の仲だった圭と音羽。

当然、圭との同棲を音羽が簡単に認める訳がなく、条件を出してくる。

圭と祐太は力を合わせて、音羽に認めてもらうために頑張るのだが……。

■実姉参戦!

前作から発売日もゲーム内の設定も約1年後となる『姉 Summer!』の続編が登場。

『2』とは言っても、二人がくっついた後のいちゃいちゃ同棲生活なんだろうと思っただけでしたが…

まさか実のお姉ちゃんが乱入するとは!

しかもこのお姉ちゃん、美女オーラをまとい、実力に裏打ちされた自信家という、平凡な主人公には釣り合いの女性。これじゃ弟のことを歯牙にもかけないような高嶺の姉だろうとの先入観を微塵に打ち砕く「弟大好き超ブラコン」のキャラクター紹介文を読んで、総裁の心はドリルヘアーの音羽姉ちゃんにすっかり奪われたまま発売を迎えたのです。

■実姉と従姉の狭間で…

簡単に前作のおさらいをしておくと、主

人公の祐太は、大学受験を控えて成績が振るわないことから、特訓のため従姉の圭ねえの家に送り出され、勉強をしたりしなかったり、従姉の圭ねえにもてあそばれたり、もてあそんだり…の一夏を描いた作品。

圭ねえこと東出圭お姉さんは、年上と年下、姉と弟の上下関係をフルに持ちだして、主人公を翻弄する、小悪魔で素敵なお姉さんなんですが、ちょっと自信がなくなると途端に弱々しくなってしまう、支えたいような従姉で、そこが魅力でもありました。

本作は二人が結ばれた後の話で、できれば前作をプレイしておいた方がいいのですが、実姉の音羽姉ちゃんがとにかく気になって、早く可愛がられたいと思う諸弟は『2』からでも楽しめるかと思われま

さて、ストーリーは、圭ねえとの愛の巢に突如乗り込んできた主人公の実姉・音羽お姉ちゃんが圭ねえと激しいがみ合いをするシーンからスタート。

圭ねえの肩を持てば音羽が実姉の威厳でにらみを利かし、さりとて音羽の肩を持てば圭ねえが心と体の絆を無にするのかと迫ってくる。絶体絶命の嫁・小姑戦争の戦地ど真ん中に放り出された主人公。右を向いても左を向いても姉なのに、板挟みでおろおろする弟。これが本作の中心的なスタイルです。

この姉同士の言い争いは、軽妙な言葉遊び的な文体を得意とするライター腕が発揮され、言葉は鋭いがドロドロせず、二人

の姉たちの弟争奪戦がコミカルに展開。このお姉ちゃん達、本当に弟のことが好きなんだなぁと思わせる上手い掛け合いです。

そんな個々のシーンもさることながら、シナリオ全体を通して今作は気合いが入っています。前作では姉萌え的に非常に残念な締めだったり、弟の性格も姉ゲーでは少数派の下克上思考だったり、需要と供給のミスマッチがありました。『2』では見違えるほど改良されました。例えば、姉弟脱却シナリオからの決別を示すこのセリフ。

「祐ちゃんはいくまで祐ちゃん。男じゃなくて弟だもの……今更、異性に何てみられる気がしないわ」

お互い付き合いの長い家族は、男だ女だと感じなくなるとは言いますが、まさにそれ。Hシーンも姉と弟の関係で睦み合う二人が描かれていて、豊かな情感を表現。

そして最も特筆すべきは、実は深い姉弟シナリオを持っていた点。「ウチの可愛い祐ちゃんを従姉の手から取り返しに来た」という単純な親戚痴話喧嘩ではなかったのです。世界的なピアニストとして羽ばたく姉が、何年ぶりに帰ってきた訳は？ 姉の隠された真実に向かい合った時、弟がずっと姉に対して秘めてきた思いがあふれ出て……続きはネタバレにつき省略。

実質的に音姉ルートと言えるアフターストーリーは、2000円の低価格ソフトとしては破格の姉シナリオです。質・量ともググッとテコ入れされた立派な姉ゲーでした。

■キャラクター

・東出圭（従姉）

従姉兼主人公の彼女。内心では年下主人公に夢中なのに、照れ屋で冗談の通じにくい性格が仇となって彼を罵ってしまう癖は抜けないが、前作より



も「恋する年上」の面が強まって、弟的には嬉しい感じ。

音姉とは宿敵関係にあり、押しかけ小姑にきりきりさせられ、今作では防戦一方。圭ねえの心休まる日はいつ訪れるのか？

・山内音羽（実姉）



ドリルヘアーが印象的な高飛車系お姉さま。

圭ねえ以上にきつい性格だが、弟に対しては別。弟は玩具だと言いながら、超ブラコン。姉弟愛無くして言えない姉セリフがそれを裏付けます。

「姉というものはね、可愛い弟のためなら頑張れる、何でもできるって思えちゃうものなの」

「弟は姉という重力からは解放されないようにできているのよ」

「ふふふー、姉と弟はねー、見えないピンクの糸で繋がっているのよ」

美人で自信家で唯我独尊。そんな姉がふっと優しくなって添い寝してくれるシーンは感動モノ。人を寄せつけないように見えて、実はとても気の置けない性格で、弟のことは大抵何でも許しちゃう甘い姉でした。

■堂々の姉ゲー認定

姉属性が求める姉ゲーとは何か、徹底的に研究した跡がありありと見受けられました。姉好きをニヤリとさせるブラコン姉のセリフや行動。姉には頭の上がない主人公。姉弟間の関係を絡めたシナリオ構成。前作での不満はほぼ解消されました。姉弟にまつわる、ある一つのテーマに真面目に向き合って描かれた終盤は姉ゲーマニアも納得のシナリオ。

強気な音姉が、最後は涙をこぼします。姉の涙を拭いてあげられるのは、もちろんシスコンである貴弟の役目です。



ラブプラス

| | |
|------|------------|
| 対応機種 | NintendoDS |
| メーカー | コナミ |
| 発売日 | 2009年9月3日 |

■総裁・寧々の愛の日記

1日目

家の都合で単身引っ越してきた俺は、十羽野高校2年生。新しい街で、甘えさせ上手な年上のお姉さん彼女が欲しい！

DSの向こう側の俺はファミレスバイトをするようだ。根拠はないけど恋の予感！

予想通り、オトナの匂いを漂わせる指導係のウェイトレスさん登場～。

姉ヶ崎寧々さんとおっしゃる。すでに名前前から姉オーラを発しておられる。

1歳違いだから、敬語は無しよ？と言われた。姉弟のように親密に行きましょってことよね？ね？

上々の滑り出しを見せた新生活が始まった。

7日目

学校の帰りがけ、昇降口で寧々さんと出会う。一緒に下校するチャンス！

……パスされてしまった。早く特別な関係になりたいぜ。

9日目

今日はバイト中に失敗をやらかしてしまい、寧々さんがフォローしてくれる。

「まだ新人なんだから、失敗してもいいのよ、でもちゃんと学んでいかないとね。」と指導してくれる。

「素直なところがあなたのいいところよ、お姉さんの言うことなんだから、信じてOK」と、早くもお姉さん宣言。イエッファー！

18日目

バイトに慣れてきた俺。指導係の寧々さ

んが「私もお役御免かな？お姉さんちょっと寂しいなあ」と。本当にお姉さんの位置をキープしてくれる寧々さんが素敵。

その日のバイト後、一人前になったお祝いに、寧々さんが食事に誘ってくれた。

二人の関係がランクアップ。メールアドレスも交換できた。結婚は近い。

20日目

下校に誘ったら「いいわよ」とOKしてくれた！おね～ちゃんと一緒に♪

21日目

おやすみ、とメールしたら、夜更かししたらだめよ、って言われた。これですよ、これ。優しく見守ってくれる姉さん彼女の眼差し。

28日目

寧々さんから「遅刻なんてしたら私が許しませんからね」と愛のモーニングメール。私生活もどんどん指導してください！

37日目

バイトの関係で、成り行きデートをしてしまった。

思えば総裁は高校時代、不遇の男子校生活で、デートなどとは一切無縁だった。思春期真っ盛りの高校生のときに、こんなデートがしてみたかった。

別れ際、寧々さんから「自分のこと、どう思う？」と聞かれた。その答えは…

- ・尽くしてくれる
- ・厳しく叱ってくれる
- ・甘えさせてくれる

なんと弟殺しな3択。

お姉ちゃんに「ご飯にする？お風呂にす

る？それともお姉ちゃん？」と聞かれたら、「全部！」と答えてダイブすることに決めている総裁ですが、どれか一つしか選べないという冷酷な選択。

姉には尽くされるより尽くしたいタイプだし、選択肢1は次の機会にとっておこう。

優しいお姉ちゃんでも、「めーっ、よ？」と叱られたい願望持ちの自分には、選択肢2が魅力的に映る。叱るよりも教え諭すのがネネさんの持ち味だと感じてきたところに、実は厳しく叱ってくれるギャップ萌えも満たされそうな選択肢。

でも、なにせ初プレイである。第一印象を素直に選びたい。そして、やっぱり甘えたい。

どりゃー、*“甘えさせてくれる”*だ！

「甘えたかったのかあ。ふふふ」

ずぎゃーん！

甘えん坊の弟を可愛く見守るようなそのお姿。ばふっと抱きつきたい衝動を抑えているDSの向こうの俺。分かるぞ気持ちは。

40日目

バイト休憩中、寧々さんが話を始める。

寧々「この前はごめんね。変なこと言って。自分のことどう思う？　なんて、困る質問だよ、よく考えたら……　忘れていいよ。」

俺「ネネさんの顔が悲しそうだったのが気になるんだけど……。何か悩みがあるなら……」

寧々「もう！　調子に乗らないの！　あれは、あなたをからかっただけだよ。だってあなた、困らせるとすごくカワイイ顔するんだもん。そう、その顔。ふふ、カワイイ。」

年下彼氏の困り顔を見て楽しんじゃう寧々さんは、いじり系姉気質？

42日目

下校時の俺

「ネネさんは、スキンシップって、どう

思う？」

何言い出すんだ、俺！　心の中で「手をつないで帰りたい」と思ってる気持ちが、うっかり声に出てるぞ！　寧々さんも「急に何？」って。寧々さんは、相手による、みたいなことをおっしゃる。

はあ、早くお手々つないで甘えたい。

43日目

バイト先で店長に褒められた。ネネさんも「よしよし」と頭なでなでしてくれた。

44日目

街で偶然寧々さんと出会い、成り行きでデートの約束。それも寧々さんのリードで。

総裁は大好きです。愛しのお姉さんから「今度一緒に行こうね」のように誘ってくれるのが。

総裁の姉属性要素の一つは、「お姉さんに構って欲しい」願望です。姉でも、先輩でもいい。少し目上の存在が、自分のことを気にかけてくれる。それは、自分の存在を認めてくれていることの証であり、アイデンティティの確認につながるからなんだろうなあと改めて思います。

話が硬くなりました。

47日目

バイト中、他の女の子店員と仲良く話をしていたら、寧々さんの悲しいような、すねてるような視線を感じる。

向こうの俺は何も気付いちやいない。まったくもう。

48日目

映画館でデートの二人。

ネネさんはどこか元気がない様子。こっちの自分は原因に薄々気付いているけど、向こうの鈍いあいつは、なあ。

そして、ネネさんから核心をやや逸らした質問が飛び込む。

……寧々様、やはり嫉妬してる！

「あの子達のこと、どう思ってるの？」との追及に対し、きちんと答えて、何とか

誤解を解く。そうなんです、僕はお子様な女子高生ではなく、寧々さんのような落ち着いた年上が好きなんれす！

ついでに自分の好みも伝えることができ、素敵なデートになったのでした。

49日目

朝、通学路で寧々さんが待っていてくれた。先輩が、後輩の男の子と通学するために待っていてくれるなんて、年下冥利に尽きますな。朝から一緒に登校（しかもヒロインの方が待っていてくれる）なんて、ときメモ時代にはなかったなあ。新鮮。

その日の午後、バイト先で珍しくネネさんが失敗をしてしまう。どこか元気もない様子。「しっかり者だと思われてるけど、実はそんなじゃないのよ」と言っていたことが頭をよぎる。

普段はしっかり者なのは間違いなくとも、ふとしたことでもろくなってしまう先輩なんだな。

51日目

朝の登校時、向こうの俺が「キスってどう思う？」とか言い出す。おい、俺！

TLSS の会話シーン「エッチな話」レベルの質問にネネさんはどう返すのか？

……。

気まずい雰囲気。

いや、この気まずさがリアルでいい感じ。

「キス……試してみる？」みたいな余裕しゃくしゃくの年上風はネネさんには似合わないし。

バイトでは、昨日の失敗を心配してたよと話しかけた俺に対し

「あーあ、お姉さん失格だな、心配させるなんて。」

と、お姉さんを自認する言葉も飛び出す。

もしかしてお姉さん扱いは嫌がっているのかな、と気になっていたのが晴れました。

52日目

朝っぱらから「僕から告白するとしたら、

どんな告白がいい？」とか言い出す俺！

あいつ、よほどの策士なのか、それともただの能天気なのか。でも、寧々さんの気持ちも窺えたし、結果オーライ。

帰りは、寧々さんからのお誘いで一緒に下校。ネネさんから、女の子の好みのタイプを聞かれる。クライマックス秒読みか？

・知的で強気な女の子

・優しく積極的な女の子

・ネネさんだよ

この3択は悩ましい！特に3番目の存在が。ゲーム的に考えれば、3番目は「今のままで」という意味なのか。ならば、正直に好みの姉タイプを答えよう。

……選べない。

10分悩んだ末、「優しく積極的な女の子」に大決定。

「ワガママも聞いてくれちゃうような？」と寧々さんが問うので、はいその通りと。

「じゃあ、やっぱり年上ってことなのかな？」

うんうん、分かっているらっしゃる。

寧々さん、自分が年上であることが気になっていたご様子でしたが、これで悩みもすっかり解消。告白は近い？

53日目

寧々さんは今日も朝から待っていてくれた。

寧々「学校まで連れて行ってあげようか？」

俺「お願いしようかな。」

寧々「ふふ。じゃ、ついてきなさい？」

もう今日はこれだけでお腹一杯です。

56日目

寧々さんにエスコートされて一緒に下校。

ここで再び好みのタイプを聞かれる。今度は、前回答えたタイプを抜いた2択。

素直に「寧々さんだよ」と答える。照れるね～！

そしたら「ふふ。照れてるの、カワイカ

ったよ？」など見透かされてしまう。

お姉さんにはかなわない。

58日目

とあるイベント発生。

寧々さんは、自分のことを「お姉さん」と呼んで、こちらのことは手のかかる弟のように面倒を見てくれる。

さらに、お姉さんともっと一緒に居たい気持ちを読み取られる始末。なんだかんだ言っ、寧々さんは一枚上手なのです。

61日目

夢を、見た。どういうわけかネネさんが、あんな格好で、よく分からない設定で。これは…告白フラグ？

62日目

バイトが終わったら話があるって？

しかも校舎裏で？

……き、き、来たあつ！

(ここで日記は途切れている)

■年上感満点!

コナミが満を持して世に送り出した恋愛シミュレーション「ラブプラス」。

発売後のファンの熱狂ぶりは、多くの同志諸弟もご存じの通り。

最初は、これだけ多くの人に売れたゲームなんだから、より広く受け入れられるように先輩キャラの味付けも薄味なんじゃないか、と高をくくっていたのです。

ところが、プレイ日記を読んでももらえればお分かりのように、年上ヒロインは年上ならではの性格設定と演出がしっかりと施され、3人のヒロインのうち年上の寧々さんに惚れるユーザーを熟知したものになっていたのです。

実を言えば総裁は、ここ最近、姉(義姉も含む)ではない単なる先輩・年上キャラには気持ちが向かなくなっていました。「やっぱり他人より家族。家庭内恋愛サイコ

ー！」思考に浸りきっていたのです。

そこでラブプラスとの出会い。

お互い、相手のことを知らなかった者同士が徐々に仲良くなっていく恋愛要素に加え、ヒロインが主人公の「お姉さん」化していく様子を見て、始まりは他人でもいいじゃないか、と思い直すようになってきました。

ただし、そう思えたのは、寧々さんの見せ方が巧みだったからこそ。

バイトや学校で「ふふ…見ててあげる」と自分を見守ってくれる優しさ。「ちゃんとしてきなさいね？」と自分を引っ張ってくれるリーダーシップ。デート中のお触りに失敗してしまった時の「焦りすぎよ」とやんわり手ほどきしてくれる大人の女らしさ。物事が上手くできた時の「よくできました」と頭をなでて褒めてくれる仕草のお姉さん感…。彼女の一举一動が、「年上の彼女」らしさであふれかえっています。

姉とはまたひと味違う寧々さんの魅力。姉にこだわりがあるプレイヤーも、彼女なら十分に「お姉さん」を感じ取ることができるでしょう。

■叶わなかった夢がDSで

生まれた瞬間に「長男」のハズレくじを引いた総裁は、これまでも、これからも、姉ができることは一生ありません。だから、姉ゲーはいつもファンタジーでした。

そんな自分でも、年上のお姉さんと付き合う“可能性”はありました。まだ青臭いあの頃、所構わず年上の彼女とチュッチュできていた“かも”知れない世界。姉ゲーをファンタジーシミュレーションと表すなら、ラブプラスはリアルシミュレーションです。

失った青春を取り戻すため、総裁は今日もDSに火を入れます。



東京マグニチュード 8.0

| | |
|----|---------------|
| 監督 | 橋正紀 |
| 制作 | ボンズ、キネマシトラス |
| 放映 | 2009年7月期 全11話 |

夏休みに入ったばかりのお台場。

中学1年生の未来は、弟の悠貴に付き合わされロボット展を見に来ていた。

はしゃぐ弟を横目に、反抗期真っ盛りの未来は退屈そうにケータイをいじっている。

「毎日毎日なことばかり…。いっそのこと、こんな世界、壊れちゃえばいいのに」

そう思った瞬間、突然地面が激しく揺れた。

東京を襲った、マグニチュード8.0の海溝型大地震。

連絡橋は崩れ落ち、東京タワーは倒壊。一瞬にしてすべてが変わった東京。

未来は悠貴の手をひき、お台場で出会ったバイク便ライダー・真理の力を借りながら世田谷にある自宅へ向かう。

果たして3人は無事に家に帰ることができるのか。

■この姉アニメがあざい!

首都東京を襲ったマグニチュード8.0の巨大地震。

レインボーブリッジは崩壊、東京タワーも倒壊する未曾有の大災害の中、まだ小中学生の姉弟と、たまたま知り合ったシングルマザーのバイク便ライダーの3人が、台場から世田谷の自宅を目指す物語です。

台場から世田谷といえ、電車を乗り継いでもせいぜい1時間、平時なら歩いても半日でたどり着ける程度の距離。しかし、震災後の混乱、建物・道路の崩壊、膨大な

数の帰宅困難者に妨げられ、帰宅は容易ではない。突如、非日常に放り出された2人の姉弟は、無事に自宅へ帰り着けるのか、というのが大まかなあらすじ。

始まる前のイメージでは、姉弟の目を通して震災後のサバイバルがいかなるものかを忠実に描き、なんだかんだでお家に帰れました、地震は怖いから備えようね、ちゃんちゃん、の流れかと思っていたのです。主役は別段姉弟でなくても、一人っ子の女の子だって通用するんじゃないかとさえ。

実際、きちんとしたリサーチと検証に基づいて描かれたという震災後の状況は、一つのシミュレーションとしてリアルで、防災意識の啓蒙を果たしていたと言えます。

しかし! ストーリー後半では、完全に家族愛・姉弟愛の重さ、尊さの描写にシフトしていたのです。もはや主役は姉弟でなくしてあり得ない作品と言い切れるほど姉アニメ極まっていました。

■姉弟二人、手を取り合って

主人公の小野沢未来お姉ちゃんは中学1年生。反抗期にさしかかったばかりで、小さな不満やいらいらが積もり、口を開けばため息が続く毎日。

萌えアニメではない、リアル指向の本作では、姉の憂うつな気分までもリアル。小学3年生の弟・悠貴君に対しては、まだまだガキなんだから、のような目で見ていて、

ブラコンどころの話ではありません。でも、この素っ気ない態度が、いかにも年頃の姉弟っぽくて、特に実姉の居ない負け組にとってはお隣の姉弟を覗き見ているかのような感覚を覚えさせます。

そして本編である大地震後。突如、非日常に放り出されたお姉ちゃんは、姉としての本能が目覚めます。離れ離れになった弟を必死の思いで捜しだす姿や、雑踏の中で姉弟がはぐれないよう手を取り合うシーンは、ストレートにこのお姉ちゃんの良い面を表してくれています。

真夏の辛い環境と、両親の安否も分からない不安な中、二人の姉弟と一人の保護者役は、手を取り合い、時にはケンカもしながら自宅を目指します。中1には重すぎる現実を見聞きし、不安の絶えない状況から脱せず、お姉ちゃんは何度も涙を流しますが、同時に人として大きく育っていく様子が丁寧に伝わってくる良作なのです。

■お姉ちゃん、あのね

中盤までは自宅を目指す姉弟を通して見た首都直下型大地震後の状況が中心的なテーマなのですが、第8話頃からそのテーマが急変。もう何者をも寄せつけない、感動の姉弟アニメへと変貌します。

……ただ、世田谷の家へ、姉弟手をつないで帰るだけのアニメだと思っていたんだ……それが、こんなにも、険しい道りになるなんて……無事、我が家に帰り着いて家族と再会したお姉ちゃんの姿に、こんなに涙することになるろうとは……夢にも……。

震災後の東京。お姉ちゃんは弟をかばいながら、弟はお姉ちゃんを励ましながら、一步一步、家族の住んでいた家に向かう。一人ではくじけてしまう道りも、姉弟が支え合ったからこそたどり着けたんだと訴

えるストーリーは、姉属性の心を打ちます。

未来お姉ちゃん、そして悠貴君に声をかけることができるなら、二人ともよく頑張ったね、本当に頑張った。心からそう褒めてあげたくなる気持ちでになるでしょう。

■キャラクター

・小野沢未来（姉）

私立中に通い、携帯をいつもいじっているような、今どきの都会っ子。

家族がうっとうしく感じる反抗期なので、弟に対しても素っ気なかったり、八つ当たりしたりするが、後半では心優しい面が表に出て、「あたし、お姉ちゃんですから！」「お姉ちゃんが絶対うちまで連れてってあげる」と姉気質も満々に。この物語は、一人の女の子が姉として成長する過程も描いた作品だったのです。

・小野沢悠貴（弟）

無邪気で素直、ロボット好きの小3の男の子。

まだ子どもながら、周りの人に気を遣うこともでき、台場に出かけたのもお姉ちゃんの機嫌を直してあげたかったから。地震後も、お姉ちゃんと一緒に帰りたいんだと姉を支え励ます姿は、姉ならずとも心を打たれます。

■姉アニメ史に残る名作

防災・危機管理アニメの主題をきっちり提示しつつ、実は強力な姉アニメでもあったという、非常に良くできた作品でした。

涙腺の弱い弟くんならば、ラスト4話はバスタオル必須レベルの感動作。

「悠貴、ありがとうね。お姉ちゃんの弟に生まれてきてくれて」

2009年のベスト姉アニメはこれです！



お姉ちゃんの弟くん

| | |
|------|-------------|
| 著者 | 真慈真雄 |
| イラスト | しぐにゃん |
| 発行 | フランス書院美少女文庫 |

「ちー姉もゆー姉ちゃんも、ボクのカラダで遊ばないで！」

大好きな弟の知佳クンと結ばれた千夏と雪乃。
処女を捧げて、いっぱい可愛がっちゃうぞ！
勝ち気な千夏がイチャ風呂ご奉仕☆
しとやかな雪乃が大胆野外エッチ☆
とどめは女装させて搾り取っちゃう!?
これもみんな弟クンがカワイイから！

■お姉ちゃん達の弟くん

本作のタイトル「お姉ちゃんの弟くん」ですが、厳密には間違いです。

正しくは、「お姉ちゃん達の弟くん」とすべきです。

表紙を見て分かるとおり、ヒロインであるお姉ちゃんは2人。(女の子に見える中央のデフォルメキャラは、これでも立派な弟くん)

姉作品のお姉ちゃんは1人がいいか複数がいいか、人により好みが変わるところですが、複数の場合は「駆け引き」「協力プレイ」「姉妹プレイ」といった要素が生まれてくるので、これらを上手く使いこなせていけば高評価に繋がります。そして、本作はきちんとそれらをクリア。とりわけ、お姉ちゃん2人の仲の良さには力が入っています。著者のブログを拝見すると、どうやら百合がお好きのようで。納得。

もちろん本編のストーリーはお姉ちゃん達×弟くんがメインなので、姉弟原理主義者にも安心です。

■実姉+義姉のωお姉ちゃん

主人公の弟くん・音谷知佳は中1、上の姉・千夏お姉ちゃんは高2、下の姉・雪乃お姉ちゃんは高1。同じ中高一貫校に通う仲よし三姉弟が、もっと仲よしになってしまうお話です。

ストーリーの柱となるような、変わった設定はなく、姉弟でイチャイチャすることに主眼をおいた、分かりやすくして気楽に読める構成になっています。

一風変わった設定といえば、上の千夏姉は実姉、下の雪乃姉は義姉であること。雪乃姉は事故で両親を亡くし、付き合いの深かった音谷家に引き取られたと説明されています。血のつながりのない雪乃姉は、姉弟同然とはいっても、千夏姉のように絶対的に否定されない姉弟関係とは違うこと、血のつながりがなければ弟を愛していてもそれは恋人関係でしかないのではないかということに不安があったのですが、主人公の弟くんがずばり「血のつながりなんて、関係ないよ」「どんな関係になったって、姉弟に変わりはないんだ」と言い放ってくれるのです。

良い弟だよ、お前！

別れてしまえば他人となる恋人関係より、一生切れない姉弟の絆を選んだ弟くん。彼は見た目が華奢で、ストーリー後半ではお姉ちゃん達に着せ替え人形のごとく女装させられた挙げ句、街へ学校へ連れて行かれたり、女装したままお姉ちゃん達とあんな

事をたっぷりさせられちゃったり、女装した姿がバレてもなお同級生の男子から言い寄られちゃうような奴ですが、弟としての自覚を持ち合わせたい主人公です。姉には従順で、姉を立てることも知っている憎い奴。

実姉の千夏姉とは肉親同士ならではの遠慮のない関係を、義姉の雪乃姉とは他人の壁を乗り越えた姉弟の固い結びつきを描き、姉モノと呼ぶに相応しい仕上がりと呼べるものになっていました。

■姉は何故に弟を愛するか

姉という人種は、本能的に弟を愛するようになっていて、姉が弟に惹かれる理由は通常なくても構わないのですが、本書にはきちんと説明している部分があって、なかなか説得的でした。

まだまだ半人前のくせに、いつも姉たちを守ろうと歯を食いしばる知佳。そんな健気な弟の姿を見て、胸のときめきを感じるようになったのは、いつ頃のことだろうか。気づいたときには弟の虜になっていた。

この一節をイメージさせる、剣道部で頑張る健気な弟の姿も用意されているのです。

だから、お姉ちゃんが惚れてしまうのも仕方がない話。眠っている弟の姿に理性を失いかけることも何度かあったという姉。

だがいつも、弟を傷つけてはいけないと自制してきた。姉としての立場を守ることが、知佳を幸せにする方法だと信じていたのだ。

こんなしっかりした考えの持ち主でもありました。

でも、弟が姉の洗濯物に欲情している姿を目撃した時、弟萌えが暴走して、あっさりと弟を押し倒してしまうのですが。

■キャラクター

・音谷千夏（実姉）

凛々しさただよう端正な顔立ち、ポニーテールと巨乳が自慢の、4つ年上のお姉ちゃん。「お姉ちゃん」よりも「姉貴」型？ というのも、ちー姉ちゃんは竹刀を持たせれば校内はおろか県内でも向かうところ敵無しの剣客娘で体育会系の姉だから。弟とのスキンシップも、ハグというより締め上げに近い肉体派。

内面は竹を割ったような性格で、裏表のない心の持ち主。弟に対しては、可愛さ故にちょっとからかってみたりすることも。

最大の特徴は、姉特有の横暴な面があるながら、同時に弟への好意を素直に表現し、弟の良い面を褒めてくれるところ。横暴で優しいブラコン姉貴。一見相反するような性格が同居するちー姉ちゃんは今までにない新感覚の姉です。

・音谷雪乃（義姉）

清楚な美貌に艶やかな黒髪、柔和な笑顔で物腰柔らかな大和撫子。そのイメージ通り、落ち着いた性格は千夏姉とは対照的。

おとなしい性格の中にも芯が強く、「お姉ちゃんに任せてくださいね」のような年上の気構えも十分に兼ね備えています。

顔は怒っていないのに怒ったりとか、従順な優等生タイプなのにちょっとSっ気疑惑があったりとか、お茶目な部分も持ち合わせたお姉さま。腹黒くはない……と信じたいです。

■3人でひたあらいチャイチャ…

ブラコン姉2人に挟まれた幸せ生活を夢想できる姉ノベルでした。

後半は著者の趣味全開と思われる女装、姉妹プレイが凝縮。好きなら見逃せません。

姉日本史専攻・我林講師誌上講義

姉萌えの日本史・万葉集

大伯皇女と大津皇子～悲劇の姉弟

《講師のご紹介》

本講義のためお招きした我林講師は、言葉巧みに姉萌えを絡めて日本史を講義し、前途ある生徒達の姉属性化を目論む現役教師でいらっしやいます。

この度、『アットホーム・ロマンス』第3巻の最終話、暁子お姉ちゃん先生による「姉萌えで読み解く日本史・万葉編」の授業を解説していただくことになりました。

それでは先生、お願いいたします。

ちなみに母の同母妹・鸕野讚良皇女も天武天皇に嫁ぎ、草壁皇子をもうけています。彼女は後に皇后そして持統天皇となる女性です。

二人の母・大田皇女は、667年に亡くなったとされています。

二人がまだ幼い時に母が亡くなったこと、そして鸕野讚良皇女も天武天皇に嫁ぎ、皇子を産んでいたことが二人の運命に悲劇をもたらしたと言えます。

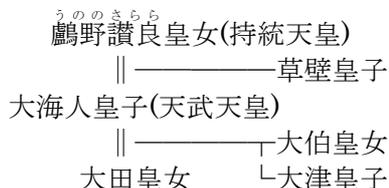
姉弟の幼年時代は、天智天皇の晩年。本来なら皇太弟である大海人皇子が後継者となるところを、天智天皇は我が子・大友皇子を後継者にしようとして、両者の対立が深まっていた頃です。皇族とはいえ、母を亡くした幼い姉弟が取り巻く状況は厳しいものです。

そして、672年に壬申の乱が起こります。勝利を収めた父が天皇に即位することで、ようやく落ち着くかと思いきや、さらなる運命が二人を引き離します。

673年、大伯皇女は伊勢神宮の斎王に決まり、翌年伊勢へ下向することになったのです。

伊勢神宮は天照大神を祀る重要な神殿。天照大神は女神であり、お姉ちゃんであり、斎宮は男子禁制です。例え弟であっても、男が斎王に会うことはまなりません。母のいない幼い姉弟が離ればなれになるわけですから、両者の寂しさは想像にあまりあります。その後、十数年、離ればなれになった二人の間に何らかのやり取りがあった

◆ ・皇室略系図(関係者のみ)



* 本講義は姉萌え史観によるものです。一般的な解釈とは異なる点があります。

時は七世紀後半。大化の改新、壬申の乱を通じて、日本が律令国家を形成していく過渡期。天武天皇(大海人皇子)の子ども達の中に強い絆で結ばれた姉弟がいました。姉は大伯皇女(注1)、弟の名を大津皇子と言います。大伯皇女は661年生、大津皇子は663年生の2歳差の姉弟です。

二人の母は天智天皇(中大兄皇子)の娘・大田皇女。一夫多妻制の世界では異母姉弟というのはたくさん見られますが、それだけに同母姉弟の「姉弟」としての絆は、より強くなります。

かは定かではありません。

時は経ち 686 年、天武天皇が亡くなります。一応の皇太子は草壁皇子となっていました。朝廷内には大津皇子の方が次の天皇に相応しいとの意見もあり、このままでは、皇位をめぐる内乱の可能性も出て来ます。皇后（鷗野讚良皇女）からすれば、姉の子とはいえ、大津皇子は我が子を脅かす危険な存在であったのです。そして、大津皇子は、父の死からわずか一ヵ月後、謀叛の罪により自害を命じられるのです。

この出来事については皇后の陰謀という説もありますし、実際に大津皇子が皇位への野心があったという説もあります。

大津皇子は、処断されるのを予感していたのか、逮捕される直前に、伊勢の姉の元へ会いに行くのです。

例え弟であっても、禁を破ることは許されるものではありません。ましてや天照大神を祀る伊勢神宮、皇族であれば尚更です。

明日には逮捕されるかも知れない危険な状況、禁を破ったとなれば、かえって処断の口実を与えかねない危険な行為。

それでも、弟は伊勢神宮にやって来る。彼にとって、姉とは、それほどまで会いたかった。まさに命がけで姉に逢いに行く。

ここに大津皇子の姉魂が感じられます。（なのに奥さんや愛人もいる。姉がいるだけでも勝ち組なのに何が不満なのでしょう？）

そんな弟を迎えた姉・大津皇女の胸中は如何ばかりでありましょう。久々に最愛の弟に会えた嬉しさもあるでしょう。しかし、禁を犯してまで会いに来た弟にただならぬものを感じていたはずで。

天照大神も、問題児の弟を持つ「お姉ちゃん」ですから、きっとお目こぼしがあったのでしょう。二人は短いながらも姉弟水入らずの時を過ごし、弟は都へと戻っていきます。

万葉集(注2)には、この時の心情を詠った姉・大津皇女の歌が二首載っています。

大津皇子の窃かに伊勢神宮に下りて上り来たりし時に大津皇女御作りたまひし歌二首

我が背子を大和に遣るとき夜深けて
暁露に我が立ち濡れし

(『万葉集』巻第二・105番)

二人行けど行き過ぎ難き秋山を
いかにか君が独り越ゆらむ

(同 106番)

「私の弟を大和へ見送ると夜も更けてきて、私は夜明けの露に濡れてしまった」

まだ夜も明けきらぬ時刻に都へ戻る弟を見送る姉。弟の姿が見えなくなるまで、姉はずっと見守っていたことでしょう。夜露に濡れてしまった、というのは弟の悲痛な思いを感じた姉の涙かも知れません。

「二人で行っても越えるのが難しい秋の山をあなたはどのように一人で越えているのでしょうか」

伊勢から大和へ戻るには、険しい山々を越えて行かねばなりません。たった一人で山を越えてゆく弟を心配する姉の心情が読み取れるのですが「二人行けど…」というところに、本当は二人で一緒に越えて行きたい、という姉の気持ちを感じ取ることが出来ます。

どちらの歌も「お姉ちゃん、心配なの」という想いが伝わってくる歌です。

姉は、弟の運命を予感していたのかもしれませんが。だからといって、弟を引き留めるわけにもいかず、ただ見送ることしかできない。そんな姉の苦しい心情が感じ取れ

ます。

姉が心配したのは、都への帰り道だけではないはずです。

そして、都に戻った大津皇子を待っていたのは「謀叛の疑い」による死の宣告だったのです。

弟の死をきっかけに、姉の大伯皇女は、斎王の任を解かれ、都のある飛鳥へ戻ることとなります。しかし、戻ったところで最愛の弟はもういない。そんな気持ちを詠ったのが次の歌になります。

大津皇子薨ぜし後に大伯皇女の伊勢の斎宮より京に上りし時に御作りたまひし歌二首

神風の伊勢の国にもあらましを
なにしか来けむ君もあらなくに
(『万葉集』巻第二・163番)

見まく欲り我がする君もあらなくに
なにしか来けむ馬疲るるに
(同巻第二・164番)

「伊勢の国に居ればいいのに、どうして(都へ)来てしまったのでしょうか、あなたはもういないのに」

*「神風」は伊勢に掛かる枕詞

「私が見たいと思うあなたはいないのに、どうして(都へ)来てしまったのでしょうか、馬が疲れるだけなのに」

まるで、恋人を亡くしたかのような、悲しみに満ちた二つの歌。弟のいない都に戻っても仕方ないのに、どうして戻って来てしまったのか……。

都に戻れば、弟はもうないのだという現

実を嫌でも突きつけられる。それなのにどうして戻って来てしまったのか。姉の複雑な心情が読み取れる歌です。姉にとって、弟のいない都など、まったく意味のない世界なのです。

都へ戻ってきたものの、弟のいないこの世を憐む姉。姉の弟への想いは年月を経ても変わりません。

大伯皇女は生涯を独身で過ごしています。大津皇子の実姉ですから、持統天皇も警戒していますし、あらぬ疑いを掛けられるかも知れないのに、娶ろうという男性もいなかったことでしょう。何より弟を愛してやまない姉が幸せな結婚を望んだのが疑問です。

大伯皇女は都に戻った後も弟への想いを歌に残します。

大津皇子の屍を葛城の二上山に移し葬りし時に大伯皇女の哀傷して御作りたまひし歌二首

うつそみの人にある我や明日よりは
二上山を弟背と我が見む
(『万葉集』巻第二・165番)

磯の上に生ふる^{あせび}馬酔木を手折らめど
見すべき君がありといわなくに
(同巻第二・166番)

「この世の人間である私は、明日からは二上山を弟と思い見よう」

うつそみは、うつせみと同語。「現せみ」と書き、現世を意味しますが、空蟬とも書けます。

「弟がいなくなって蟬の抜け殻のようになってしまった私」とも解釈できます。

二上山は大津皇子が葬られたとされる奈良・大阪の境にある山です。当時の都・飛鳥浄御原や藤原京からも見ることができ、大伯皇女はこの山を眺めながら、弟のことを思い続けたのでしょう。

「岩の上に生えているアセビを手折ろうとしたけれど、見せたいあなたがいるとは誰も言わない」

ここでの磯とは、水辺のほとりの岩という意味合いです。馬酔木はアセビ(アシビ)という植物。小さな壺のような花がいくつも連なって咲きます。

お姉ちゃんがアセビの花を手折って「ほら、きれいでしょ」と弟に見せようとしたら、弟の幻影が消え……というものの悲しいシーンが思い浮かびます。

いつまでも引きずっていても、弟は喜ばないだろうに、それでも姉は弟を想い続ける。悲劇的な最期を迎えた弟を救えなかった、伊勢に会いに来た時に救える機会はあったのに……そんな姉の後悔の念が、これらの歌を詠ませたのではないかと思えてなりません。

関連事項

・二上山（大阪府・奈良県）

大津皇子が葬られたとされる山で、雌雄二つの山頂を持つ双耳峰と呼ばれるタイプの山です。つまり山そのものが仲の良い姉弟です！（断言）雄岳の山頂付近に大津皇子の墓があります。

近鉄南大阪線二上山駅などからハイキングコース

・夏見廃寺跡（三重県名張市）

大伯皇女が父・天武天皇を偲んで発願し

た昌福寺の跡地と考えられています。

寺の遺構だけでなく、展示館(有料)があり、二人の姉弟の物語を見ることが出来ます。さらに展示館の裏には大伯皇女の小さな歌碑(前述の166番)があります。歌碑は二つの石が寄り添うように立っています。大伯・大津姉弟をイメージしているという姉魂に満ちた歌碑です。

父を偲んで……と言われていますが、あれだけ弟を想い続けたお姉ちゃんが、弟の菩提を弔うことを考えないわけがありません。おおっぴらに「弟のために」とは言えませんから、表向きは父のためとしつつ、実は弟のために……と解釈したくなります。

近鉄大阪線名張駅からバス・夏見下車徒歩5分。

・『天上の虹ー持統天皇物語』

講談社 Kckiss(漫画文庫版もあります)

著者：里中真智子

タイトルの副題にあるように持統天皇が主人公の物語ですが、大伯皇女・大津皇子の姉弟愛を見事に描いている作品です。現在コミック版で20巻まで出ていて、まだ完結はしていません。

特に伊勢神宮での姉弟のやり取りは姉萌え要素満載です。このシーンは、コミック版では第12巻に収録されています。また20巻もお勧めです。もう大津皇子は亡くなって久しいですが、その後の大伯皇女の話が出て来ます。

注1：大来皇女という表記もありますが、ここでは大伯皇女とします。

注2：『万葉集』の元の和歌は万葉仮名で表記されていますが、ここでは歴史的仮名遣いに改めました。



姉属性 ONLY イベント

『姉魂っ ~sis-con!~』

開催しちゃいます！

長年の夢だった姉 ONLY イベントです。
全姉連も主催の一人として携わっています。

2010年3月28日(日)

川崎市産業振興会館 1階

[川崎駅より徒歩8分]

詳しい参加要綱は、イベント公式サイト

<http://sis-con.net>

または下記連絡先へお問い合わせください。

当日は姉系同人誌即売会のほか、各種企画をご用意。

一般入場無料。(カタログ自由購入制)

サークル参加・一般参加とも、たくさんのお姉ちゃん好きな弟くん妹さんのご来場をお待ちしております！

全姉連会報 第12号

発行：全姉連 総本部 (<http://www.zenaneren.org/>)

発行日：2009年12月31日

著者：全姉連総裁

連絡先：so-sai@zenaneren.org

表紙：音音様 (cocon! http://www.geocities.jp/cocon_sound/)

印刷：株式会社ユリクリエイト様



本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。
ここにお礼申し上げます。

本書へのご感想、ご意見、ご質問はお気軽に上記連絡先までお送りください。

